

# 総合的な学習の時間における 協働性を高める授業づくりについて

所属コース 教育実践開発コース  
氏名 一文字史歩  
指導教員 太田佳光 藤原一弘

## 【概要】

本研究は協働性を高めるために、教科横断的な活動ができ、子どもの多様な活躍の場が期待できる総合的な学習の時間において、積極的相互作用、ゴールの共有、グループ目標と個人の責任の明確化、役割の自覚、参加の平等、協働のためのルール、メンバー理解の観点を盛り込んだ授業実践を行った。授業では子ども同士が1人1人のよさを自覚し、そのよさの相乗効果が生まれることを期待した。実践における結果については、子どもの協働性に対する意識の変化や行動の変化をワークシートや参与観察を用いて分析した。

キーワード 【協働・自己理解・他者理解・よさの相乗効果】

## 1. 問題設定

近年、社会の変化の流れが激しく、社会が複雑化、多様化してきている。その中で、人の考え方や価値観も多様化しつつある。このような社会の中で生き抜く力を現代の子どもたちは求められている。学校も社会も集団で生活をしたり、働いたりすることがほとんどである。多様な人がいる中で生きていかなければならない。近年はコロナ禍ということもあり、働き方も多様化しており、家で仕事をする機会も多くなってきていたり、ネット環境の普及などによって、人と関わる機会も減ってきたりしている。しかし、まったく人と関わらずに生きていくということは不可能に近いことである。そのため、学校では、子どもたちが社会に出た時に生きるような、多様な他者と関わる力を身に付けてほしい。平成16年『若年者の就職能力に関する実態調査』（厚生労働省）をみると、「若年者就職基礎能力」として、コミュニケーション能力、平成18年『社会人基礎力に関する研究会 一中間取りまとめ』（経済産業省）では、「社会人基礎力」として、前に踏み出す力（アクション）、一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）、多様な人々とともに、目標に向けて協力する力などが求められている。また、OECDのキーコンピテンシーにおいても、①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力②多様な社会グループにおける人間関係形成能力③自律的に行動する力などがこれからの社会において求められている。これらのことから、人と関わるためのコミュニケーション能力や対人関係スキルは、今後、より一層必要になってくることが考えられる。そのため、他者と協働する力を高めることも重要になってくるだろう。

そこで、本研究では協働性に着目し、それを育む授業とはどのようなものが考えられるか、提案したい。今回は、総合的な学習の時間を取り上げて、協働性を高める授業を考えてみた。なぜなら、総合的な学習の時間は活動の幅が広く、教科横断的な活動が取り入れやすいため、

子どものよさや得意なこと、個性を生かした活動ができると考えたからである。小学校段階で、協働性を高めていくことで、子どもが社会に出た時に、多様な人と、互いの個性やよさを生かして、よりよく働いたり、生活を送ったりすることができるような足がかりになればよいのではないだろうか。さらに今回は、グループワークに焦点を絞り、子どもの意識の変化や行動の変化をワークシートや参与観察で得られた情報を基に分析していく。

## 2. 先行研究

### <協働性について>

協働とは、「作業の均一的な配分とか成員の均質性を前提とするものではなく、成員間の異質性、活動の多様性を前提とし、異質な他者との相互作用によって成立する活動のありようを指すのである。教室でいえば、ひとりひとり固有の学習経験や生活経験を背負って集ってくる子どもたちの多様な授業参加を前提として認識を共有していく活動のあり方を指す。」と述べられている（藤江, 2010, p143）。子どもたち1人1人の違いを前提として、その中で互いが関わり合い、認識を共有しながら活動を進めていくことが協働を行う上での条件ではないだろうか。

また、現代社会においては、多様性が尊重され、互いの価値観を認め合いながら生きていくことが求められる。すべての人が同じことができることよりも、互いのよさを生かして、互いに補い合っていく、よりよいものを作り上げていくことが今後の社会では求められるのではないだろうか。社会の中で生きていく上で、他者との関わりは避けて通ることはできないだろう。そのような他者の異質性を最大限に生かした活動が行えるような力を子どもたちに身に付けさせることによって、子どもたちの社会性を高めていくことも必要である。そこで、本研究では協働を「1人1人のよさを生かしながら、よさが相乗効果を生み出すような働き」と定義することとする。令和3年度にまとめられた中教審答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』では、次世代を切り拓く子供たちに求められる資質能力の1つとして、「対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力など」(p3)も挙げられている。また、令和3年度に出された『学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料』によると、「「協働的な学び」においては、主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげ、児童一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方は組み合わせたり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切です。」(p17)とある。多様な個性が尊重される中で、子どもの個性が埋没することのないよう、1人1人がよさを生かして働き、新しいものを生み出していくことが、協働性を高めるためには大切なことである。

### <協働性を高める活動を行うために>

秋田(2010)は、協働の学習形態において、グループという形態をとって話し合いをさせるだけでなく、メンバー間の相互交流の質を問題にし、すべてのメンバーが積極的にグループに寄与する場面を作る必要性を述べている。その上で「互恵的な相互依存性・積極的相互作用・グループ目標と個人の責任の明確化・小集団技能の奨励と訓練・活動の評価」や「参加の平等、活動の同時性」を協働の原理として指摘している(pp128-129)。令和2年に徳島大学高等教育研究センターがまとめた資料には、「「協働力」には、「①協働のためのルール」「②話す・聞く」「③アイデアの発想と収束」の3つの観点がある」と述べられている。

また、協働を成功させるコツとしてゴールの共有、時間管理の徹底、自分の役割の自覚もあげられている (p34)。以上のような協働性を高める働きに関する取り組みを参考にしつつ、本研究では、積極的相互作用、ゴールの共有、グループ目標と個人の責任の明確化、役割の自覚、参加の平等、協働のためのルールについて取り上げたい。それに加えて、1人1人のよさを生かす取り組みとして、メンバー理解という点も取り入れて、協働性を高めるための活動を行うためにどのようなことをすべきか考えてみる。

協働性を高めていくためには、まずメンバー理解を行い、他者の異質性や多様性を認識する必要がある。しかし、子どもたちにとっては、多様性を認める、人との違いを認める、ということは簡単ではないだろう。そのため、まずは、互いのよいところに目を向け、互いのよいところ、出来ること、得意なことを共有するところから始める。互いのよさやできること、得意なことを生かして協力して1つのことを成し遂げるといった体験を積むことで、他者のよさや多様性のよさを再認識させるだけでなく、組織として、互いのよさを生かして活動すると、よりうまくいくことを実感してもらいたい。そして自分のよさや他のメンバーのよさをグループ内で共有し、それぞれのメンバーのよさが生きるような役割を決め、活動での個人目標を立てる。この活動を行うことによって、自分の仕事に対する責任を持たせること、役割意識を持たせることを期待する。1人1人の仕事に役割と責任を持たせることによって、グループに積極的に寄与できるようにし、参加の平等を促すようにする。次に、活動の目的や目標を明確にすることをを行う。活動の目的や目標を決めることで、活動中の意識を高めていく。また、子どもたちに最終的な活動のゴールイメージを持たせることによって、子どもたちの中で、活動中に何をすべきなのか、具体的なイメージを持たせる。そうすることで、自分が果たすべき役割を認識させやすくしたい。

### 3. 実践

2021年11月1日から11月30日の期間に10時間分（発表4時間を含む）実施した。対象学年は5年X組36人である。実施内容は「YouTuberになろう！1人1人のよさコラボ企画」である。目標を「福祉について調べたことをおもしろく伝えるために、1人1人のよさを生かして協力し、工夫して動画を作ろう」とした。目標は毎時間初めに提示し、子どもたちに意識させるようにした。また、2時間に1回程度、活動の目標を班で決めさせるようにした。目標の確認と班での活動目標設定のねらいはゴールの共有とグループ目標と個人の責任の明確化である。

ここからは、全体の授業の流れを説明する（表1）。まず1時間目の導入で企画名を発表した。そして、自分のよさを知り、自分のよさを生かした役割（〇〇リーダー）を決めること、メンバーのよさ理解をすること、本企画を進めるにあたっての注意事項（協働のためのルール）を説明することの3つに焦点を当てた授業を行った。

2時間目は1時間目に高めた協働性の意識をもう一度高めさせるために、最初は自分が何リーダーになったのかということのを班のメンバーに周知させ、動画作成・資料づくりに取り組ませた。ここではメンバー理解、役割の自覚、協働のためのルールの確認をねらいとして授業を行った。2時間目から6時間目は発表に向けての準備を各班で行う時間とした。発表日を決め、その日に向かって活動を行うこと、自分の役割をきちんと自覚しているか、自分たちのグループのリーダーがしっかり役割を果たしているか、などを中心に机間指導を行った。7時間目から10時間目は、自分のよさを生かした役割を、十分に果たせるような発表

を意識させた。YouTuber になったつもりで、見ている人に生配信、ビデオでの収録日という設定で発表会を行った。図 1 において、授業全体をとおしての具体的な手立てを示している。

授業を行う前にグループ活動における協働性に対する意識調査（事前アンケート）を実施したところ、全体的に協働性の意識が高かったため、全 10 時間を通して、数値が低い児童の底上げを図ろうと考えた。机間指導では、事前アンケートで評価の数字が低かった児童 5 名を選出し、役割意識や設定目標の確認、進捗状況の把握を重点的に行った。

表 1 本授業実践の流れ

時間	実施内容	目的
1	○企画名の発表と最終ビジョンの共有 ○自分自身と他者のよさを見つけ、自分のグループ内での役割を決定する。 ○協働のためのルールの確認（全時間）	○ゴールの共有 ○メンバー理解 ○個人の責任の明確化 ○役割の自覚
2～6	○グループ内の目標や自分や他者の役割を意識しながら、グループで発表資料や動画をつくり上げていく。	○積極的相互作用 ○参加の平等 ○ゴール・目標の明確化 ○役割の自覚
7～10	○作成した資料や動画を使って発表する。	○参加の平等 ○役割の自覚

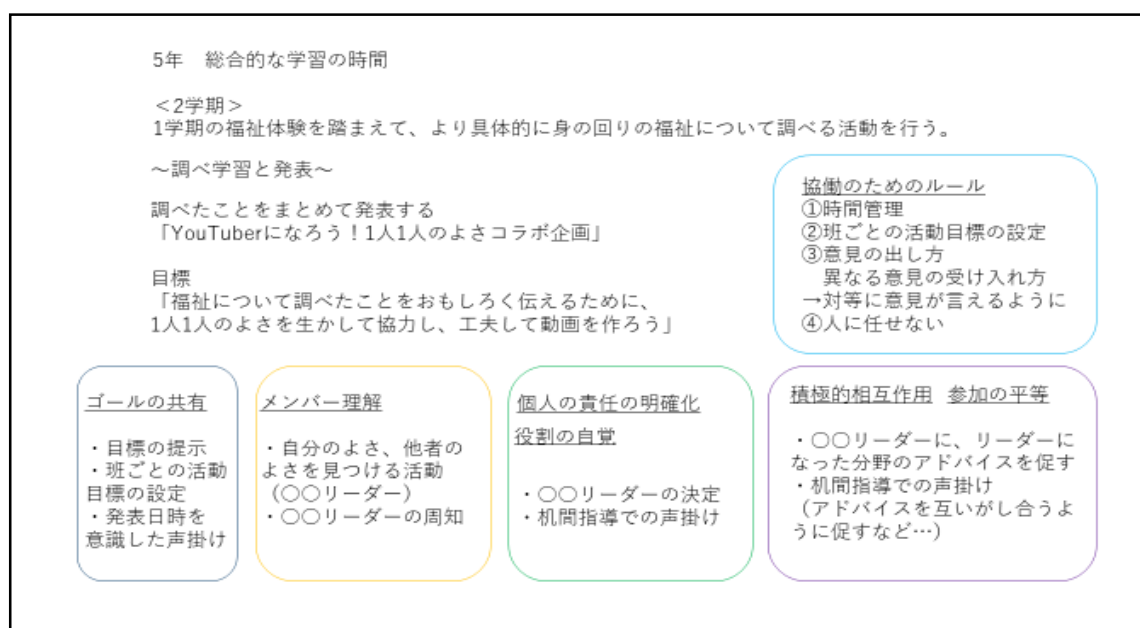
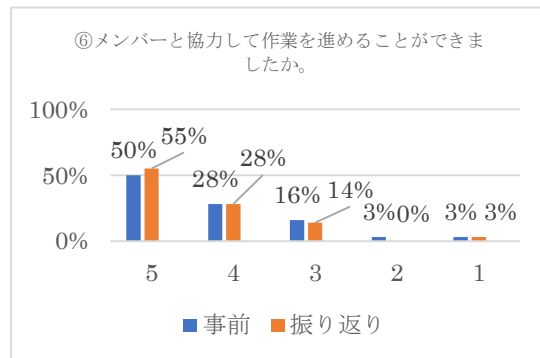
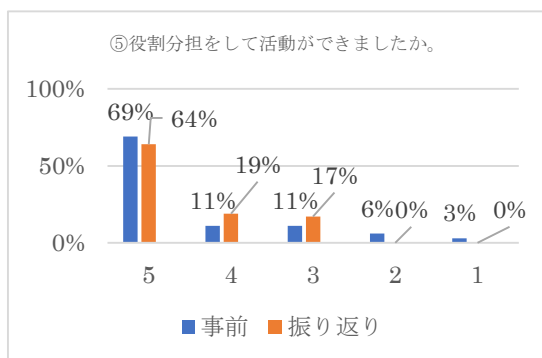
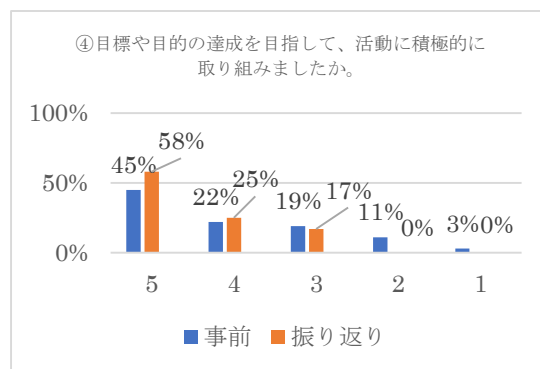
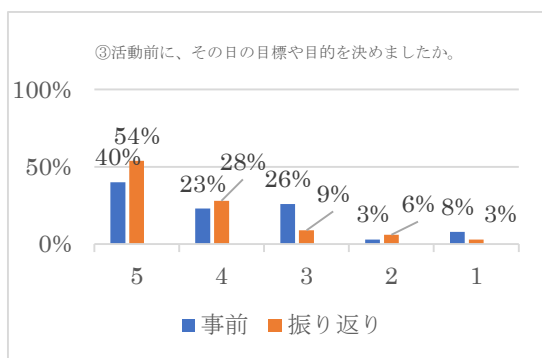
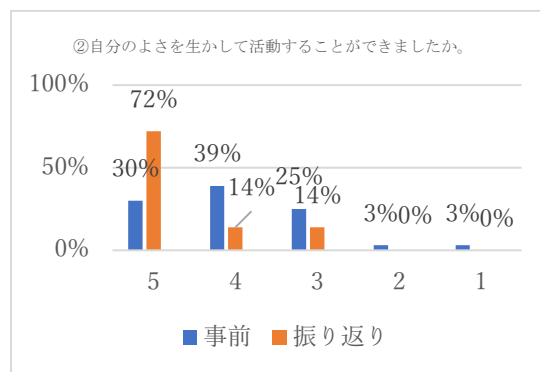
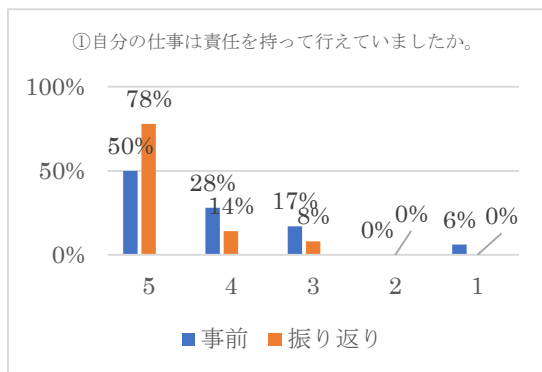


図 1 活動時における手立て

#### 4. 結果と課題

「YouTuber になろう！1人1人のよさコラボ企画」の授業を行った前後の子どもの振り返りワークシートによる調査結果をまとめた。よくできたを5、まあまあできたを4、ふつうを3、あまりできなかったを2、全くできなかったを1としている。図 2 を見ると、ほとんどの項目で数値が上昇していた。子どもたちの振り返りの感想からも、「2人のグループだ

ったけど、2人が自分たちの課題を見つけて協力して資料を作れて、1人じゃできないことができたと思いました。」「グループで行うことで、1人ではできない資料や発表ができました。」「友達のよさにも気付くことができた。」など、互いのよさを生かして活動し、よさの相乗効果が生まれたことを感じ取ることができることができた。これらは本研究での「1人1人のよさを生かしながら、よさが相乗効果を生み出すような働き」という協働の定義を満たすのではないだろうか。



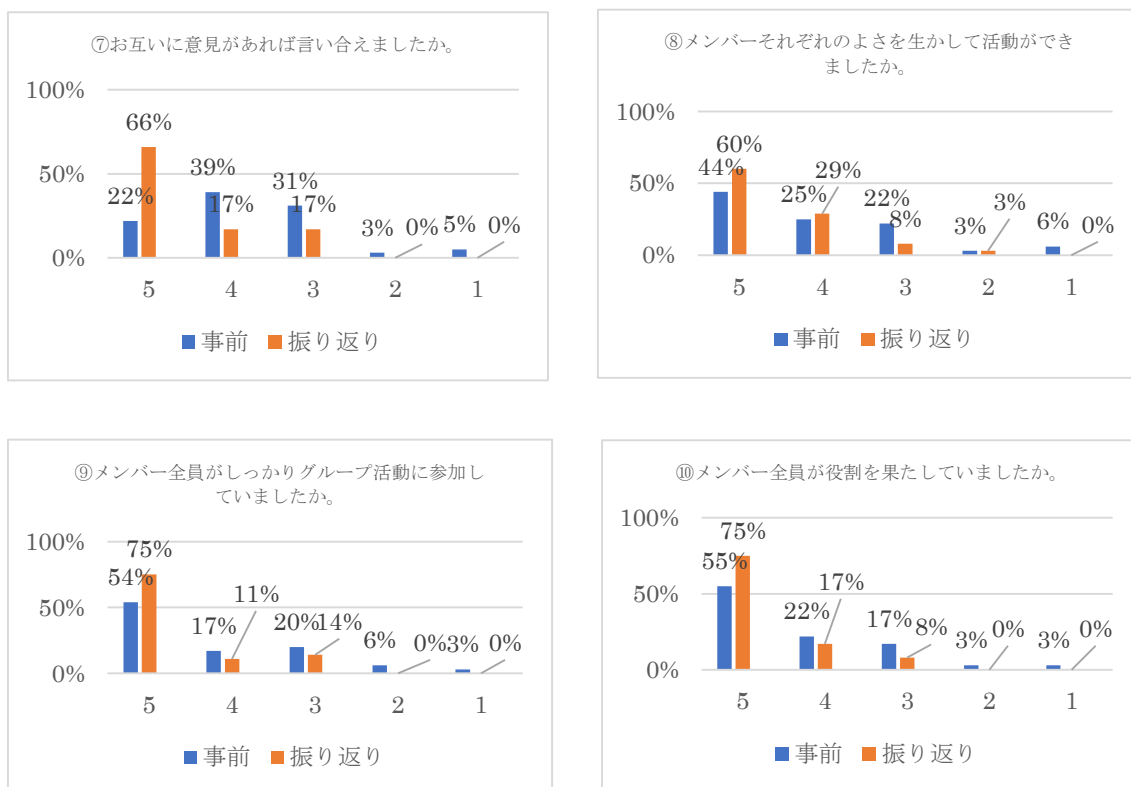


図2 振り返りワークシートを用いた調査結果10項目（5件法）

グラフをより詳しく分析すると、全体的に数値は上昇傾向であったが、図2の⑤における役割意識を問う項目での「5：よくできた」の数値が減少していたことが分かった。互いのよさを生かした活動はできていたが、意識的な役割の自覚ができていなかったことが原因としてあげられる。机間指導をしている際に、子ども1人1人役割を聞いて回っていたところ、自分の役割を忘れていたことが発覚した。活動中、役割意識を持つことは協働において重要なことであるため、もっと自分の役割を確認するという活動が必要であったかもしれない。また、授業を実際に行ってみての課題も見られた。まず班編成についてである。今回の班編成は、各自がやりたいテーマを決め、同じテーマを発表する人で班を作った。この班編成の仕方では、もともと仲のよい人同士が集まってしまい、同質性が高く、班によって発表スキルや資料作成スキルの差が出ていた。同質性が高いと、発表や資料作成スキルに偏りが出たり、班によって能力の差が見られたりした。子どもの調べたいことの意味も尊重しつつ、班の中で異質性が高まるように教師が意図的に班を組んだり、くじ引きなどの偶然性を活用して班を組んだりすると、子どもの協働する力を、より高められるのではないかと考えた。

次に〇〇リーダーを決め、役割意識を持たせるという部分についてである。今回は特に条件を設定せず、子どもたちの中で出てきた考えをもとに〇〇リーダーを決定した。機械操作の得意な子の動画編集リーダーや、絵を描くことが得意な子のイラストリーダーなどは役割意識が芽生えやすく、参与観察のなかでもリーダーとしての活躍が見られた。しかし、笑顔が素敵な子の笑顔リーダーや、やさしさがよさの子のやさしさリーダーなどは役割が曖昧でリーダーの活躍をあまり見取ることができなかった。このような結果を踏まえて役割

意識をもって積極的に平等な活動参加を促すためには、活動の技術面での役割や具体性を持たせた役割決めをしていく必要性があるのではないかと考えた。

## 5. まとめ

本研究では、10 時間分の協働性を高める授業実践を行ったが、実際に活動を行ってみて、短期的な視点と長期的な視点をもって協働性を高めていく必要があることを実感した。数時間の授業内では、教師が視点をもって机間指導や全体指導をすることで協働の意識を高めることができるが、それでは自発性は低いかもしいない。協働性を高めるためには、短期的な意識付けを長期に渡って行っていくことで、子どもの中で、意識が習慣化し、自発性を高めていくことが重要になってくるのではないだろうか。例えば、授業の中だけでなく、学校教育全体を通して協働性を高めていくというものである。係活動などで 1 人 1 人のよさを生かした役割を与える。そして、その子のよさを生かしてクラスをよりよいものにしていく。その過程で同じ係の子ども同士のコラボレーションを促したり、班同士のコラボレーションをさせたりすることで、よさの相乗効果を生かした学級をつくっていくなどの取り組みが考えられる。授業だけに留まらず、学校教育全体を通して協働力を高めていくことで、より一層、異質で多様な他者と、1 人 1 人のよさを生かして働ける力を子どもに身に付けさせることができるのではないかと考えた。現場に出た際は、今回のように授業の中で協働性を高めるだけでなく、日々の学校生活の中にも協働性を高めるために意識すべき視点をもって、子どもたちの指導を行っていききたい。

## 引用・参考文献

- 秋田喜代美 (2010) . 協働学習の過程 秋田喜代美・藤江康彦 授業研究と学習過程 放送大学教育振興会 126-142.
- 経済産業省 (2006). 社会人基礎力に関する研究会—中間取りまとめ— 平成 18 年 1 月 20 日 [https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou\\_wg/pdf/001\\_s01\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou_wg/pdf/001_s01_00.pdf) (最終アクセス日 2022 年 1 月 13 日)
- 厚生労働省 (2004) . 『若年者の就職能力に関する実態調査』結果 <https://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/01/d1/h0129-3a.pdf> (最終アクセス日 2022 年 1 月 13 日)
- 塩川奈々美 (編) (2019) . 徳島大学 SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～ 徳島大学 大学教育再生加速プログラム実施専門委員会 33-36. [https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/1/4/0/\\_/\\_SIH\\_.pdf](https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/1/4/0/_/_SIH_.pdf) (最終アクセス日 2022 年 1 月 13 日)
- 中央教育審議会 (2011). 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (答申) 令和 3 年 1 月 26 日 [https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt\\_syoto02-000012321\\_2-4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf) (最終アクセス日 2022 年 1 月 13 日)
- 藤江康彦 (2010) . 協働学習支援の学習環境 秋田喜代美・藤江康彦 授業研究と学習過程 放送大学教育振興会 143-157.
- 文部科学省 (2021). 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料 (令和 3 年 3 月版) [https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt\\_kyoiku01-000013731\\_09.pdf](https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt_kyoiku01-000013731_09.pdf) (最終アクセス日 2022 年 1 月 13 日)

**謝辞**

本研究を行うにあたって、ご指導してくださった先生方、コロナ禍で授業実践を受け入れて下さった小学校の先生方、本当にありがとうございました。